

土地の分け目結構複雑?関係者一同に集まりわきあいあいと一境界線を確定するための立ち会い開催

新さかき診療所リニューアル事業計画答申が確定し、いよいよ具体的な作業が始まりました。

8月21日(金)に、測量士、近隣の境界線関係者、区長さんと自治体関係者、不知火メディックスも参加し、境界線を確定するための立ち会いを行いました。

かなりの炎天下でしたが、マスク着用を基本とし、ソーシャルディスタンスを確保、水分もしっかり補給しながら作業を進めました。



道路との境にある側溝をまたいで少々複雑な境界線となっており入念な確認が行われました。また、新しい診療所のイメージしながら車や人の導線も考慮に入れ、さまざまな意見が交わされました。



河川と隣接した県の土地、お隣の後藤先生宅との境界線も、現状の道路の通りではなく微妙に変化していることが分かりました。それぞれの使い勝手や支障がないかどうかを確認しながら、にこやかに作業が進められました。

灼熱の作業 炎天下の中地盤調査 思わぬハプニングも



8月25日(水)に新社屋建設予定地の地盤調査が行われました。

今回の調査は、スウェーデン式サウンディング試験機動力盤(写真左の重機)での調査でした。地下3mほどドリルで掘り25cm間隔でドリルにかかる負荷の記録を取り、粘土質か砂利質かなど簡易的に地盤の固さを測定されました。

今回は5地点の調査でしたが、デイケア前のアスファルト部分の作業中(写真右下)地下1メートルほど掘ったところで直径3cmのドリルがポキンと折れるハプニングも。機械の圧は100kg「地下上部は車や家屋でしっかり固められているみたい。ここは山の谷間なので粘土質が多いかも。地形でかなり層が変化するところ」と言われていました。

炎天下での厳しい作業でしたが、丁寧に地盤調査を行われていました。

お困りごと有いませんか?

さかき診療所は、コロナ禍に加え豪雨災害、熱中症対策を促すために訪問活動を行ってきました。しかし、新型コロナウイルスの影響が近づき、電話での聞き取りを余儀なくされています。

まずは自らをご自愛いただき、ご自身と身の回りの方でお困りの方がいらっしゃいましたら、さかき診療所までご連絡ください。 代表 0968(53)1125